

2026年6月13日（土）

イラン戦争

—超域的視座からの再検討—

申込み
不要

参加費
無料

2026年2月28日に始まった「イラン戦争」は、中東地域における紛争にとどまらず、よりグローバルなレベルで既存の安全保障秩序を大きく揺るがす事態となった。

本シンポジウムでは、戦争の推移や現状分析ではなく、イスラエルを切り口とし、4人の報告者がイラン、米国、欧州、アラブの視点から、戦争のもたらした国際的な安全保障秩序の動揺／変動を超域的視座から再検討する。

**会場：明治大学 駿河台キャンパス
リバティータワー1階1011教室**



主催：明治大学国際武器移転史研究所（RIHGAT）

共催：科研費基盤研究（B）「現代中東におけるイスラーム主義運動の動向と政教関係の動態：ムスリム同胞団を事例に」（課題番号：26K03167、研究代表者：横田貴之）

PROGRAM

13：00 開場

13：30～13：40 主催者挨拶・趣旨説明

佐原 徹哉（RIHGAT所長、明治大学教授）

13：40～15：00 第Ⅰ部 シンポジウム



坂梨 祥（日本エネルギー経済研究所中東研究センター長）
「イランの戦後秩序構想とイスラエル」



溝渕 正季（明治学院大学教授）
「漂流する超大国：
『イラン戦争』と米国覇権の黄昏」



小窪 千早（静岡県立大学准教授）
「『イラン戦争』と欧州：
米欧関係の混迷とその影響」



横田 貴之（明治大学教授）
「アラブ諸国にとっての『大イスラエル主義』
とイラン戦争』：仲介国エジプトの視点から」

15：15～16：25 第Ⅱ部 総合討論・質疑応答

モデレーター：佐原 徹哉

16：25～16：30 閉会挨拶

参加方法：当日、会場入口にて受付

※入場者が200名を超えた場合は入場を制限させていただくことがあります。

お問い合わせ先

明治大学国際武器移転史研究所の事務局まで メールでお問い合わせください。

E-mail：rihgate@meiji.ac.jp